

製品名: ENTPD5 (18I11) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe10483**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	ENTPD5
別名	CD39L4; Entpd5; mNTPase; NTPDase 5; PCPH;
遺伝子 ID	957.0
SwissProt ID	O75356
免疫原	ヒト ENTPD5 の合成ペプチド

背景

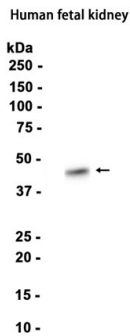
ウリジンジホスファターゼ (UDPase) は、タンパク質の N グリコシル化と ATP レベルの調節を促進します。UDP 加水分解は、小胞

体におけるタンパク質の N グリコシル化とフォールディング、および ATP 加水分解サイクルを介した細胞質における ATP 消費の増加を促進します。ウリジンジホスファターゼ (UDPase) は、タンパク質の N グリコシル化と ATP レベルの調節を促進します。UDP 加水分解は、小胞体におけるタンパク質の N グリコシル化とフォールディング、および ATP 加水分解サイクルを介した細胞質における ATP 消費の増加を促進します。CMPK1 および AK1 とともに、ATP を AMP に変換する ATP 加水分解サイクルを構成し、好気性解糖の代償的増加をもたらします。ヌクレオチドの加水分解の優先順位は GDP > IDP > UDP ですが、他のヌクレオシド二リン酸、一リン酸、三リン酸、およびチアミンピロリン酸ではありません。ホスホイノシチド 3 キナーゼ (PI3K) シグナル伝達に応答して増殖細胞における解糖を促進することにより、AKT1-PTEN シグナル伝達経路で重要な役割を果たします。

研究分野

画像データ

Human fetal kidney



kDa
250 -
150 -
100 -
75 -
50 -
37 -
25 -
20 -
15 -
10 -

ENTPD5 (18111) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した、ヒト胎児腎臓組織抽出物のウエスタンブロット分析。